



ガマの油あぶらって本当ほんとうにとれるの

ヒキガエルは毒どくの分泌液ぶんびつえきを出だす

ガマとよばれているのは、体からだにいぼいぼがある、ヒキガエルの仲間なかまです。

ヒキガエルの仲間なかまは、目の後ろうしろの方ほうにある耳腺じせんとよばれる所ところが発達はったつしています。ヒキガエルが敵てきにおそわれたりすると、ここから乳白色にゅうはくしよくの液えきが、分泌ぶんびつされます。この分泌液ぶんびつえきの中には、毒どくの成分せいぶんが入はいっているのです。うっかり、この液えきのついた手てで、目めをこすったりすると、角膜炎かくまくえんを起こして、目めが真っ赤あかになり、痛みいたます。イヌやネコが、ヒキガエルを見つてなめたりすると、この分泌液ぶんびつえきのため、あわをふいて苦しくるむことがあります。でも、カエルのいちばんの敵てきであるヘビは、この毒どくには平気へいきです。

ヒキガエルの毒どくの成分せいぶんは、薬くすりになる

ヒキガエルの分泌液ぶんびつえきの中の毒成分どくせいぶんは、100年ねんぐらい前まえから研究けんきゆうされていて、心臓しんぞうの筋肉きんにくや、神経しんけいに作用さようすることがわかっています。そのため、漢方かんぽうの強心剤きょうしんざい（弱よわった心臓しんぞうの動きを強める薬くすり）として、使つかわれてきています。

ガマの油あぶらとは、このヒキガエルの分泌液ぶんびつえきを集あつめたものをいいます。このガマの油あぶらを混ぜたぬり薬くすりを売うっていたのが、ガマの油あぶら売りうりです。切り傷きずやひび、あかぎれなどにきくといってお祭りまつや縁日えんにちで、調子ちょうしよくおもしろい話はなしをきかせながら、ガマの油あぶら売りうりが売り歩あるいたので有名ゆうめいになっています。ガマの油あぶら売りうりが言うように、刀かたなで切きった切り傷きずが、本当ほんとうにガマの油あぶらをちょっとぬっただけで、目の前めでもと通りまへに直なおるということはありません。（監修・今泉 忠明）

